

三水会会報

北里大学水産学部
同窓会会報

働く女性

- ・ 転機 (2期生・大山康子)
- ・ 日々の生活 (9期生・関裕美)
- ・ 飼育係 (21期生・成田歌織)

第25回漁火祭開催報告書 (漁火祭実行委員長・高坂友和)

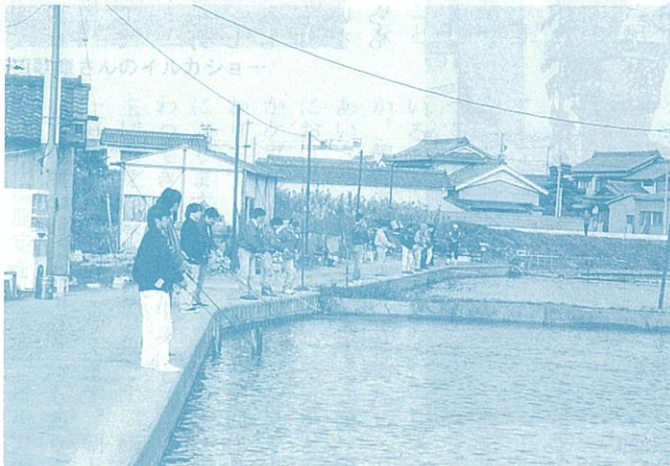
頑張ってます

- ・ スズキのルアー釣り堀を開設して (1期生・石川義行)

三水会役員・代議員一覧 (事務局)

見たい、知りたい、話したい

- ・ 平成10年度総会開催について
- ・ 関東地区会員親睦会のお知らせ
- ・ 環境・生態学研究室同窓会のお知らせ
- ・ 新企画『大物釣ったぞ見ておくれ』
- ・ 住所不明会員について (事務局)



スズキのルアー釣り堀を開設してより

1998
No.2
Vol.35

働く女性

転機

(2期生

大山康子) 旧姓・大西

F市立病院の看護婦として働きはじめて2年になろうとしています。現在脳神経外科病棟に配属され悪戦苦闘している毎日です。この病棟はF病院の中では20床と小規模ではありますが、きめ細かい看護が要求される病棟です。クモ膜下出血や交通外傷の様に展開の早いものもありますが、脳動脈奇形や脳腫瘍などにより長期入院を余儀なくされている患者さんも多く精神的な部分でのケアが重要になってきます。就職して最初の年は仕事を覚えるのに精一杯で患者さんの入院生活が安全に、いかに快適に過ごせるかだけを考えてきたように思います。2年目に入り、入院生活というのが患者さんの一時的な仮の姿で、いかに自然な形で社会復帰できるのかも考えたケアができる様になりつつあります。まだ半人前で毎日毎日が技術的にも精神的にも勉強です。実際の仕事は力仕事あり排泄の処理など汚れ仕事あり

でハードなものです。が、一生懸命にその人なりによりよく生きて行こうとしている人の手助けできるのが喜びでありやがいのある仕事だと思っています。様々なケースを経験して早く一人前の看護婦になりたいです。

思い起こせば7年前、一番下の子を生んだあと、仕事が全て終わってしまった様な虚無感にとらわれ一歩も前に進めない状態がありました。いったい今まで私は何をしてきたのか、など深く反省し考える機会でもありました。迂余曲折を経てある日看護学生になっていく私がいまいた。准看、高看と4年間の学校生活を送り今に至っています。その間も現在も「何事も卒なくこなす。」という能力に欠ける私は家族に対しては「ごめんなさい。」の日々。夫にとつては急に子供が4人になった様なもので、何も言わずに協力体制をとってくれましたが本当に大変だっ

たと思います。又時には仕事で夫婦共家を空ける事があり、そんな時は子供達3人で起きて学校へ行っています。しなくても良い苦労をさせているなあと哀しい気持ちになりま。一風変わった母親を持つ子供達、それでも明るくたくましく成長しており救われています。

もしかしたら私の最も不得意分野が看護婦の世界かも知れません。しかしそこをうまく克服できた時私も人間として少し大きくなれるかも知れないと期待し、また家族の思いを裏切る事のないように、これからは

真面目に取り組んで行きたいと思
います。



お嬢様の七五三にて

日々の生活

(9期生 関 裕美) 旧姓・永山

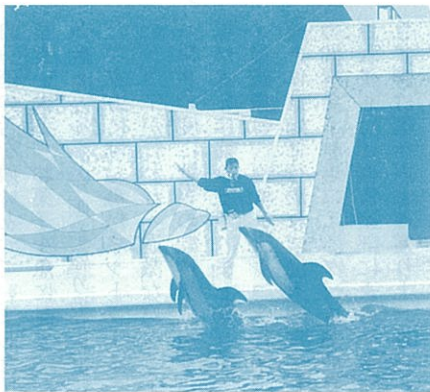


マルハ株式会社中央研究の関裕美さん

私は現在、マルハ中研(つくば市)から車で約三〇分の下館市の建売住宅に、夫・子供の三人で暮らしている。毎朝六時頃起床し、大体七時頃子供と共に家を出る。保育園へ寄って、中研に着くのが八時三〇分頃。帰りは一七時三〇分過ぎに中研を出て、保育園↓コンビニ(子供がごはん・ごはんと騒ぐため)↓家(一九時頃)。夕食は焼き魚とか簡単なものが多い。とても手が回らないので家事はサボっている。

中研での仕事は、社内・社外の依頼分析(化学)で、一般の研究開発よりもはつきりとした期限があるため忙しい。メンバーは三人。一般分析(水分・たんぱく質・脂質・灰分)の他、食品添加物・残留農薬・貝毒・クレーム処理・電話での問い合わせ等々、原子吸光計から液クロ・ガスクロ・アミノ酸分析機様々な手法を用いて、お客様の要望にこたえるべく努力している。保育園に延長料金を払うことも度々あるが、仕事自体は楽しんでる。分析方法は日進月歩。勉強することが多すぎて、どうやってその時間を工面するか毎日子供とにらめっこ状態である。

こんな私でも、ペットの世話には時間を割いている。ポタンインコ四羽・猫一匹・熱帯魚約二〇匹。ポタンインコに話しかけたり、熱帯魚をポーッと眺めている時が、今の私にとっては貴重な安らぎの時間でもあるからだ。



成田歌織さんのイルカショー

みなさん、こんにちわ。私は水族館で飼育係という仕事をしてます。飼育係といっても一言では言えない仕事です。私は一年間、海獣展示課イルカチームというところに配属されてました。今年の三月より魚類展示課で働いています。どちらの話し方が興味があるのか分かりませんが、女性の多くはイルカの話好きだと思います。イルカの話をお話したいと思います。「みな

さん、こんにちわ、ようこそ、鴨川シーワールドへお越し下さいました。今日はこのコートでスパーセツションがくりひろげられることとなっています。彼らの以外な一面、目にも止まらぬ、エネルギーシユな」と毎日ショーが行われています。これを読んでいる中には、ショーをやっている人はショーだけ、餌を作っている人は餌作りだけだと思っている人がいるのではないのでしょうか。飼育係の一日は、動物たちへのあいさつから始まります。一頭一頭におはようと声をかけ、元気かどうかケガをしていないかなどを見てまわります。それが終わると、餌作りに入ります。個体により餌の量は変わってきます。餌の中身はというと、主に自身の魚と赤身の魚です。餌は一日何回かに分けて与えます。朝と夕方の餌の時(日中行う時もあります)。体温測定をします。イルカの体温はどうやって測るかという、おなかを上にするよう指示をだし、体温計を肛門から入れて測ります。シ

ヨーの合い間には、動物たちの訓練、ブールの掃除、個体別の日誌付け、餌場や餌を入れたバケツの洗浄、水质の検査、お客様からの手紙の返事書き、質問の応対など行います。他には、動物を見るということは大切な仕事です。泳ぎ方や排便（健康な排便は水に溶けます。）でも健康チェックができます。動物が風邪を引いたり、おなかをこわしても、私たち人間と違って話すことができません。ですから、私たちがしっかりと

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

第25回漁火祭開催報告

錦秋の山々と青い海のコントラストが素晴らしい三陸キャンパスで、第二十五回漁火祭が十月十八日（土）十九（日）の二日間開催されました。本年は、「歴史を創れ！波を起こせ！」をテーマに掲げ、実行委員会一同全力で準備をしてきました。初日は、午前六時二十分からの開会式に続いて体育会学生による伝統の大漁踊りによってスタートしました。メイン会場では、クラブや講座

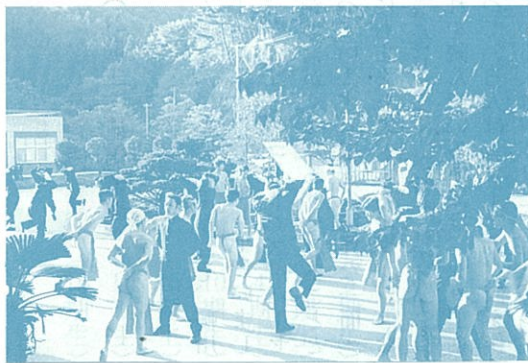
見てあげなくてはなりません。具合が悪かったり、お産が始まったりした時は動物を見る時間が多くなりません。時には徹夜になることもありまます。帰る時は、動物たちにおやすみのあいさつをし、長い一日が終わりましました。今までイルカについて書いてきましたが、他の動物や魚についても同じようなことがいえます。これだけ書いても、他に仕事はまだまだあります。ですが、書ききれませんので、このへんで終わります。

漁火祭実行委員長 高坂友和

の模擬店が会場を形づくり、威勢の良い掛け声が飛び交う中、軽音楽部の野外ライブコンサートとジャグリングクラブによるストリートパフォーマンスが会場を大いに盛り上げました。展示会場では、日頃の活動の成果を発表する部活のパネルが展示され、特に写真部の展示は、地元の方々から大好評でした。二日目は、三陸ならではの企画、利き酒大会が行われ酒好きの学生が

自分達の舌を競いあっていました。早食い大会、お菓子を魚に見立てた魚釣りなどの企画が盛り沢山でした。夕方には「電撃ネットワーク」のショーが行われ、過激なパフォーマンスの度に驚きの歓声が上がりました。会場は大いに盛り上がりました。

後夜祭は、タレントショーに引き続き体育館で行われ、漁火祭宝くじの抽選会、有志によるダンスが披露されました。軽音楽部による後夜祭ライブは例年以上の盛り上がりでした。今年の漁火祭は実行委員会のスタツフが少なかつたため開催できず不安でしたが、無事終了することができました。これも地元の方々、厚い御支援、三水会、関係者の方々の御協力のおかげであり、実行委員を代表して厚く御礼申し上げます。



頑張ってます

スズキのルアー釣り堀を開設して

(1期生 石川 義行)

ティラピアからスズキへと養殖経営を展開

当社は昭和五十年より、それまで養鰻池として使われていた所を借り受けて、ティラピアの養殖場としてスタートしました。当時、ティラピアは脚光を浴びていましたので生産が追いつかない年が続き、ハウスを拡張するなどして増産し、年間二百五十トの体制で生産をしていました。

しかし、平成に入り安い輸入品が市場に回り、販売量が徐々に減少し始めました。そこで、ティラピアに変わる新魚種として数魚種の飼育試験を経て平成四年よりティラピアとスズキの二魚種で養殖を始めました。その後、年々ティラピアの注水量が減っていくに伴い、スズキの生産量を増やす結果になって行きました。

〇―157 騒動が釣り堀開設のきっかけに

平成八年強烈な打撃を被ることとなり、三月から例年通り販売が始まり、六月に入り、これから需

要が伸びて忙しくなるという時、大阪の堺市で病原性大腸菌〇―157による集団食中毒事件が起き、瞬く間に全国で発生、世間がパニック状態になってしまったことです。当社の販売は関西が主ですので影響は大きく、夏の最盛期を見込んで加工用に生産していたスズキは、七、八月に300kgを出荷しただけで大幅な出荷減となってしまいました。予定していた売上がないままスズキのシーズンが終わってしまうという苦境の中で、従業員たちと連日対策を考えました。しかし、来年まで養殖するにも池は一杯、資金的にも無理、まさしく八方ふさがりの状態でした。

そんな時、以前に出入りの業者が「スズキ釣りは面白い、池を釣り堀にしてスズキを釣らして」と言っていた事を思い出しました。「そうだと釣り堀に販売してみよう。そうすれば少しでも在庫の処分ができるかもしれない」。しかし、釣り堀といえ

ばニジマスなどのマス類が主で、他

には昔ながらのコイやヘラブナ。スズキを釣らせる業者は、全国どこを探しても見つかりません。幸い使用していない露地池が三面あったことから、「いつそのこと」と、釣り堀を経営することにしたのです。

手探りで始めた釣り堀経営が予想外の注目を集める

しかし、釣りは三陸に居た頃やったのが最後で、その後、この業界に入ってから全く無関心で、ほとんど知識がありません。結局、釣りが趣味の息子に聞き、ルアー釣りの釣り堀にすることに決め、地元のルアー釣り専門店に案内してもらいました。店主の話は、「スズキはシーバスと呼ばれルアー釣りの対象魚として人気がある。しかし、シーバスを専門に狙って100回投げて1回アタリがあれば良いほうで、年間を通じて何匹も釣れるものではない。なかなか釣れない魚を池に大量に放流して釣らせればお客は来てくれる」と太鼓判を押します。全て手作りでの準備を進め、スタートしたのが九月

でした。不安なスタートでしたが、口コミで情報が広がり、釣り雑誌が紹介記事に記載してくれたことなどから、日に日に入場者は増え、十二月にな

ると入場制限をするようになり、また、年が明けると新聞、テレビ、ラジオ等での報道、同窓生の奥山文弥プロも取材に来社など周囲の関心の高さに驚いています。

ただ、観光養魚場の様な施設ではないので、入場できる人数が少なく、当社が養殖業から釣り堀業へ完全に転業するのは難しいと思います。

ノウハウを蓄積し、新たな展開に備える

現在、養殖業界を取り巻く環境は非常にきびしい状態です。私見ですが、日本で食用魚の生産は、現在の国際情勢、政策からいって今後、経営困難になって衰退して行くと思います。当社の釣り堀も苦肉の策として経営している訳です。釣り堀を始め、釣り関連業界の人達の話や聞く機会ができ、今後の養殖の一つの指針を得る事ができました。それは、釣り専門魚としての養殖の可能性です。

今後は現在の釣り堀のノウハウを蓄積して、釣り堀業者の開拓と魚の供給をしたいと思えます。同時に新たな釣り専門魚の養殖も手掛けて行きたいと思っています。そうすることによって今後の経営を少しでも安定したものにして欲しいと思っています。

三水会役員・代議員一覧

平成9年度総会にて改選されました役員および代議員をお知らせ致します。

任期は役員・代議員、共に平成9年5月～平成12年5月です。宣しくお願い致します。

役員

1、会長

長谷川一敏 (3期生)

2、副会長

畠山 俊之 (4期生)

佐藤伊豆男 (6期生)

3、理事

名簿担当 石井 雄 (1期生)

大野 良樹 (1期生)

長屋 信博 (1期生)

斉藤 勤 (3期生)

企画担当 町野 至 (4期生)

高橋 明義 (5期生)

総務担当 水野 幸司 (5期生)

会報担当 川添 一郎 (6期生)

中村 栄 (9期生)

平本 愛明 (12期生)

中山統一朗 (14期生)

西尾 徹 (14期生)

楠本 正毅 (16期生)

小林 博子 (16期生)

4、監事

島田 和明 (1期生)

伴 圭司 (1期生)

5、事務局

石井 美華 (4期生)

代議員

環境・生態学研究室

其阿弥喜嗣 (1期生)

石井 雄 (1期生)

水産食品化学研究室

横堀 昌道 (2期生)

小野十美雄 (3期生)

佐藤伊豆男 (6期生)

中村 栄 (9期生)

平本 愛明 (12期生)

島田 和明 (1期生)

水野 幸司 (5期生)

堀内 岳郎 (6期生)

細田 大輔 (13期生)

國安 浩 (13期生)

魚類生理学研究室

長屋 信博 (1期生)

田代 茂年 (2期生)

鈴木 英之 (3期生)

関口 敬二 (3期生)

奥村 誠一 (5期生)

内藤 文隆 (8期生)

垣内 省吾 (9期生)

田中 義員 (14期生)

水産生物化学研究室

西村 哲典 (3期生)

深井 敏行 (11期生)

西尾 徹 (14期生)

水族病理学研究室

大野 良樹 (1期生)

田村 治 (2期生)

長谷川一敏 (3期生)

畠山 俊之 (4期生)

町野 至 (4期生)

高坂 一郎 (10期生)

小林 博子 (16期生)

楠本 正毅 (16期生)

磯山 直彦 (16期生)

水産資源化学研究室*1

石川 義行 (1期生)

中村 年彦 (2期生)

小林 昇 (7期生)

小泉 康志 (8期生)

池田 穂高 (8期生)

水産増殖学研究室

伴 圭司 (1期生)

江成 良治 (7期生)

丸山 和之 (12期生)

海洋分子生物学研究室*2

齊藤 勤 (3期生)

高橋 明義 (5期生)

川添 一郎 (6期生)

松井 完二 (10期生)

及川 善裕 (14期生)

水産微生物学研究室

佐藤 敏行 (3期生)

太田 浩司 (6期生)

中山統一朗 (14期生)

基礎生物学研究室

田中 和義 (17期生)

山崎 啓司 (18期生)

*1:旧 水産衛生学研究室

*2:旧 水産利用学研究室

見たい 知りたい 話したい

●平成10年度総会の開催について

下記により平成10年度総会を開催致します(会員は傍聴できます)。

〈開催日〉平成10年5月17日(日曜日)11:00~

〈開催場所〉北里大学薬学部E号館8階802会議室(白金校舎内)

〈協議事項〉平成9年度事業報告・決算、平成10年度事業計画・予算、規約改正案、その他

●関東地区会員親睦会のお知らせ

三水会では毎年、関東地区の会員とご家族を主な対象とした親睦会を開催しておりますが、今年は「マス釣大会とバーベキュー」の企画で神之川(かんのがわ)キャンプ・マス釣場において開催致します。ご家族を含め、多数の方々の参加をお待ちしております。

参加をご希望される方は、会員名、卒業年、住所、電話番号、参加者数(大人・子供(小学生以上)・幼児)別に明記し、郵送またはFAXにて6月30日までに事務局あてにお申し込み下さい。参加希望者には地図等詳しいご案内を差し上げます。

尚、キャンプおよびバンガローをご使用する方は、直接現地にご連絡下さい。

1. 開催日 平成10年7月25日(土曜日)(受付け開始、午前9時00分、解散:午後3時00分)
2. 集合場所 神之川キャンプ・マス釣場
3. 参加費 大人2000円 子供1000円(小学生以上)

参加申込み方法 三水会事務局に電話またはFAXにてお願い致します。

《三水会事務局》〒246-0031 横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1 電話・FAX 045-303-3135

《神之川キャンプ・マス釣場》電話・FAX 0427-87-2116

●環境・生態学研究室OB会のお知らせ

環境・生態学研究室の同窓会を下村先生、井田先生、早川先生、林崎先生、朝日田先生をお招きして行うことになりました。

〈開催日〉平成10年5月31日(日曜日)11:00~14:00

〈開催場所〉北里大学白金校舎本館1F食堂

〈会費〉5000円

参加申込み、問い合わせは中村までFAXにてお願い致します。

9期生 中村 栄 FAX 03-3811-5866

●新企画

『大物釣ったぞ、見ておくれ』

三水会では過去に大物を釣り上げたことのある人を募集しています。写真または魚拓などをコメントを添えてお送り下さい。三水会の理事が独断と偏見により優秀な会員に記念品を送ります。写真、魚拓などは三水会事務局へ送って下さい。

《三水会事務局》〒246-0031 横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1 電話・FAX 045-303-3135

住所不明会員

次の会員の方々の現住所が不明となっております。ご存知の方は事務局までご連絡下さい。お知らせ下さった方は、お礼として粗品を差し上げます。

今回は1期から10期生までの方を掲載させていただきます。事務局

食品学科

- 1期生(昭和51年卒) 宇田川 健・本多 稔
- 2期生(# 52年卒) 北橋 幸夫(旧姓・立石)
- 4期生(# 54年卒) 能勢 尚一・能勢いづみ(旧姓・原田)
- 5期生(# 55年卒) 長田 和司・柴田 宇光・永谷 元俊
- 6期生(# 56年卒) 続木 優・古川 立人・上野 克之
- 7期生(# 57年卒) 有住 愛信・小島 義行・宇佐 昌史・瀧田 寛
- 8期生(# 58年卒) 鬼塚 順・神田 浩好・赤石 一郎・池上 隆雄
- 9期生(# 59年卒) 遠藤 良夫・市川 裕・佐藤 尚久・石幡 光弘・古谷 正美
- 10期生(# 60年卒) 佐藤 修・山本延生己

増殖学科

- 1期生(昭和51年卒) 宮崎 公孝
- 2期生(# 52年卒) 若原 集
- 3期生(# 53年卒) 荒木 伸一・田中 耕平・福田 隆明・内山 秀嗣
- 4期生(# 54年卒) 浅見 公雄・佐藤 成史・野々村信一郎
- 5期生(# 55年卒) 瀬田 修一・藤浦 嘉晃
- 6期生(# 56年卒) 小路谷敏彰・岡谷 剛之・仲元 剛・和田 均
- 7期生(# 57年卒) 石田 巖・和田 泰子(旧姓・杉山)・田中 進
- 8期生(# 58年卒) 福永 一郎・大高 彰・鈴木 孝則
- 9期生(# 59年卒) 佐藤 正臣
- 10期生(# 60年卒) 秋山 裕子

平成10年2月11日発行

編集者 川添 一郎

発行 三水会(北里大学
水産学部同窓会)

事務局 〒246-0031 横浜市瀬谷区
瀬谷5-22-1
☎045-303-3135

振替口座 第一勧業銀行
大手町支店
008-1182388